

NO299  
泉南走ろう会

連絡先  
泉南スポーツ社  
0724(83)4653



1. 例会日

一月十四日  
集合時間 九時  
場所 種河神社

一月二十八日  
集合時間 九時  
場所 種河神社

2. 大会結果

● 龍神温泉ハーフマラソン 十二月三日  
今回の参加者は結局、和田さん、堀池さん、森野さん、岡田の四名となりましたが、毎年和歌山・高野山ウルトラマラソンの時にポランティアをされているトリアスロン仲間と清未さんが一緒に行かれることになりチョット心配していたのですが、車の中でも何時もと違った話題もあり楽しい大会参加となりました。天候も昨年のような雪もなく走るには丁度良い気温の中で走ることが出来ました。特に私は昨年は、腰の調子が悪いこともありタイムも良くありませんでしたが、今年は何とか四十分を切る事が出来ました。  
スタート直後から、森野さんにほって行かれましたが、何とか十五km地点まで追い付きゴールしました。堀池さんは昨年と同じ位の時間で走られました。和田さんは昨年よりも遅れましたが、何とか二時間以内に走られ現状からすれば、上出来と納得の行く走りが出た様でした。

● クエマラソン

十一月二十六日  
今年も走ろう会から出口さんが参加されましたが、以前は一位の賞品として有ったクエが今年には、なかったとのこと、有ればみんなで鍋物でもしようかとの話をしていたのですが、残念ながら出来なかつた様です。因みに出口さんは二位とのことでした。

3. 大会案内

● 十津川マラソン 一月二十八日  
毎年参加している大会の一つですが、走るの目的なのか、温泉三昧か、宿泊しての夜の宴会が楽しみなのか分かりませんが、何れにせよ十津川に行くことが、待ち遠しい大会だという事は間違い有りません。とにかく一度参加してみれば分かるかと思えます。現在申し込まれているのは、栗野原会長、堀池さん、宮下さん、和田さん、西さん家族、岡田の八名です。しかし、私の方は何時もこの時期になると仕事が混んできてややこしい時期でも有りチョット心配な所です。何とか今から上手く仕事をこなして行かなければと考えております。

4. 初詣ラン

来年も元旦の三社参りを実施します。参加される方は、種河神社に七時に集合願います。

5. 会計報告

十二月九日に行われた忘年会にて会計幹事より06年の会計報告があり参加者全員に承認されました。内容は報告書通りです。参加されなかつたみなさんも御了承願います。尚、07年の会費に關してですが、本年同様に年、三000円(二五0円/月)となります。

《泉南走ろう会》平成18年度収支報告書

月日	項目	収入	支出	残高
	前年度繰越			34,511
	年会費(12名)	36,000		70,511
12月10日	忘年会残金	200		70,711
1月9日	年会費(西氏)	3,000		73,711
"	12月切手,ゴビ一代		2,240	71,471
1月22日	年会費(宮下氏)	3,000		74,471
2月26日	1月切手,ゴビ一代		2,240	72,231
3月26日	2月切手,ゴビ一代		2,240	69,991
"	年会費(栗生氏)	3,000		72,991
5月13日	年会費(清水氏)	3,000		75,991
5月28日	3月切手,ゴビ一代		2,240	73,751
"	4月切手,ゴビ一代		2,320	71,431
6月10日	5月切手,ゴビ一代		2,240	69,191
7月10日	6月切手,ゴビ一代,封筒代		3,000	66,191
8月12日	7月切手,ゴビ一代		2,240	63,951
8月26日	香典(西氏)		5,000	58,951
"	「貝塚8時間」参加費		5,000	53,951
9月10日	8月切手,ゴビ一代		2,240	51,711
"	「貝塚8時間」保険代		2,500	49,211
10月9日	9月切手,ゴビ一代		2,240	46,971
10月29日	「貝塚8Hマラソン」駐車場代		1,000	45,971
	「貝塚8Hマラソン」昼食代		4,094	41,877
11月12日	10月切手,ゴビ一代		2,370	39,507
12月3日	11月切手,ゴビ一代		2,240	37,267

会長 栗野原 泰正

6. 機関誌発行について

泉南走ろう会が発行して参りました機関誌が、二007年の一月号をもって三00号の記念紙になります。会員の皆さんから記念のメッセージ等を募集いたしますので宜しくお願いします。



# マラソンに焦がれて⑤

大阪の道頓堀に輝く「マリソン」のネオン。両手を掲げたランナーの姿はおなじみだ。戦前、そのモデルになったのが金栗四三。初めて五輪に挑戦した「日本マラソンの父」である。

明治が終わる1912年、金栗は東京高等師範（現筑波大）の20歳の学生だった。校長は講道館柔道を創設した嘉納治五郎。「日本スポーツ界の黎明の鐘になれ」と送り出され、シベリア鉄道で開催地ストックホルムへ向かう。だが、結果は無残だった。地下足袋はちぎれ、足は血まみれだらけ。初めての真夏のレースで暑さ



金栗四三さん

にやられ、27付近で意識を失って倒れた。翌朝、日記に書いた。「大敗後の朝を迎ふ。終生の遺憾の念で心すく。(中略)恥をすすぐために粉骨砕身してマラソンの技を磨き、もって皇國の威をおびせ」敗北はした。でも、外国の選手もたいてい体が小さい。むしろ日本人に比べているのではないか。

## ニッポン人・脈・記



皇居をめぐる親ぼく駅伝で走る山田敬蔵さん

金栗のこの発見が日本をマラソンの世界に羽ばたかせる。山田敬蔵(9)の一日は午前7時に始まる。未明から川崎市内を30分走るのが日課だ。生涯に走った距離はもうすぐ36万キロ。金栗先生に出会えたからですよ。秋田県で生まれ、戦後、鉾山でトラックの修理工をしながら団体のなかに出た。指導者になつていた金栗から見込まれ、強化合宿に招かれる。「絶対に怒らない、温和な人でしたな」。金栗のあだ名は「おしやかさん」だった。52年のヘルシンキ五輪。金メダルは人間機関車「エミール・ザトペック」。山田は26位に終わった。翌年のポストン・マラソンで雪辱を期す。当時、ポストンは五輪に次ぐ権威のレースだった。山田は力を振りしほってスパイク、優勝をさらった。身長157センチの走りは「小型機関車」と異名をとる。ゴール直後、金栗が涙ながらに抱きついてきた。

# 小柄でも頂点届く

「このときの師の言葉を、現役を退いても心に守ってきた。60代からポストンに12年連続で参加し、ここは4時間余で完走した。大会のボスターになり、沿道から「ケーン」と声援が飛ぶ名物男である。60年ローマ五輪選手の貞永信義も金栗に見いだされた。鐘紡(現カネボウ)の山口県防府市の工場に勤めながら走った。純然たるアマチュア精神が守られていた時代。賞金ももらえなかった。海外の大会に出るには勤めを長く休み、渡航費を工面しなければならなかった。貞永をポストンに出場させた。

# 走り続けて35万キロ

金栗は58年、工場を訪れ、援助を頼んだ。話を聞いて本社にかけあってくれたのが工場長の牧野直隆。「何なら私のボナスを使いなさい」。牧野はのちの日本高校野球連盟会長。今年7月、95歳で他界した。貞永は引退後、鐘紡の監督として若手を育てた。いま(2011)は日本記録2時間6分16秒を持つ高岡寿成(36)がいる。日本のマラソンをもっと強くしたい。ランナーのすそ野を広げよう。金栗が考案していたのが駅伝だ。たすきを渡す団体戦のおもしろさを伝へ、正月スポーツの華、箱根駅伝も生み出す。「各ランナー、マスコット組、み事業部の人も協力した」と

熊本陸上競技協会会長の長谷川孝道(76)。熊本毎日新聞記者時代、地元金栗の家を通り、評伝を連載した。88年、金栗は逝く。92年、世界のマラソンに出会う。屈辱をほねに、日本マラソンを手塩にかけて育てた生涯だった。その功績をたたえて始まった福岡国際マラソンは3日、第60回を迎える。コース途中の博多駅前、「体力、気力、努力」と金栗の言葉を刻んだ石碑がある。「マラソンの父」の教えは、いまもランナーを見守っている。(小田邦彦)

■月曜から金曜まで掲載します。人をめぐる物語をお寄せください。電子メールは [myaku@asahi.com](mailto:myaku@asahi.com)

2006年月別走り込み km

名前・月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
石井 繁貴	189											
今仁 正義	192	142	117	170	353	282	245	243	135	329		
岡田 盛助	235	243	258	308	193	322	214	220	288	315	266	
芝本 鈴代	387	409	473	460	535	500	468	486	545	547	533	
出口 牧	450											
和田 年弘	184	125	163	173	140	77	105	3	13	100	150	
西野 盛隆	158	—	98	170	163							
堀池 一夫	125	167	70	100	141	110	171	101	134	180	178	
宮下 哲	0	0	0	50	50	50						
西 和秀	80	122	88	108	138	80	80	120	90	135	85	
栗野原会長	126	100	80	78	75	101	60	120	70	110		
森野 卓也	0	0	0	30	45	115	30	140				